●　第５回市民委員会Ａ班のアウトプット（各主体役割に関する付箋の内容）

テーマ：「人材育成、人づくり」
【各主体の役割】ゴシック部分や≪≫が主なキーワード

○地域（市民）

- **・生活場所として人のつながりがあり、課題もよくわかる。**　≪つながり・課題がわかる≫
- **・行政や学校ではできないが、地域ではできることもある。**　≪他の主体ではできないことができる≫
- ・地域のことや昔ながらのことを子どもたちに教えられる。学校の協力依頼に応え、地域の相乗りもできる。
- ・若い世代にも役割と責任を持たせ、地域活動や祭りなどで人材を発掘し、必要な場所に出してやる後押しと人材を活かせる仕組みづくりを行う。　≪若い世代に責任を≫≪人材発掘≫
- ・各種団体が集まり、話や協議ができる場を設け、つながりができるシステム（協議会など）をつくる。それぞれの課題を理解する。　≪各種団体でつながる≫
- ・企業のリタイア組の活動の場をつくる。　≪専門性を生かす、活用する≫

○行　　政

- **・職員も積極的に地域活動へ参加し、人材として地域とつながる。**　≪地域の人材≫
- **・地域活動を支援したり、地域に還元できる制度設計や仕組みづくりを行う。**　≪制度設計・仕組みづくり≫
- ・意識改革を進め、職員も地域住民として市民感覚を高める。(町内会加入など)　≪まずは市民≫
- ・社会的地位もある安定した職員が、地域活動に参加し話すことで、信頼も高まる。
- ・活動団体の地域活動に対して理解する。　≪地域活動への理解≫
- ・企業がどのような形でまちづくりに参加できるのか、行政が企業にアプローチする。

○学　　校

- **・子どもたちや地域の人が集まりやすい場となる。**　≪子ども・地域が集まりやすい≫
- **・地域にかかわることで、広い視点を持った人づくりを進める。**　≪社会人をつくる場≫
- ・地域の人が、子どもたちに昔ながらの遊びやスポーツを教え、人づくりにつなげる。
- ・大学の専門性を地域貢献に活かす。　≪大学の専門性≫
- ・地域活動に対する学校開放を進める。地域団体が子どもへのスポーツ指導ができやすくなり、学校、子ども、地域のつながり、人づくりができる。　≪学校開放≫

○ＮＰＯ（市民活動団体）

- **・活動を通じて、人づくりや地域を越えたつながりをもつ。**　≪全域的≫
- ・人づくりに向け、社会教育の場を提供できる。　≪社会教育の場≫
- ・市民に広く活動を発信する。　≪活動の発信≫
- ・スポーツを通じてつながりを持ち、人づくりの切り口となれる。　≪スポーツは切り口になりやすい≫

○企業、民間事業所

- **・企業＝プロとして、専門的な人材、優秀な人材で地域貢献できる。**　≪専門性・人材・専門能力の活用≫
- ・業務の中で地域貢献を進める。(売り上げや自販機収入の地域還元など)　≪業務で地域貢献≫
- ・企業トップが社員に対して、地域貢献の教育を進める。　≪経営理念の一つに≫
- ・地域のためのボランティア休暇制度などをつくり、退職後の地域参加も促進する。≪ボランティア意識醸成≫

【各主体の関係】

○まちづくりを進めていくためには、「人づくり」が必要であり、団体内での後継者を育てるというだけでなく、子どもの頃から広く地域に目を向けられる人材育成への関わりあいも大切である。
各主体の活動においても、人づくりの視点やまちづくりの視点を持って取り組み、若い世代にも役割と責任を持ってもらい、活躍できる場へ後押しすることも必要である。

※　仕組みなどは、次回以降、話し合いを進める。